

成 果 物

日本語学習途上の留学生への集中講義を積極的にFD (Faculty Development) の機会ととらえ、事前研修ー講義ーフォローアップを実施、学内外の教員に開放 (FD道場)

◎FD効果とともに、日本語教育へのフィードバックが可能

◎研修テキスト「はじめての集中講義物語」の出版

日本語教育に専門基礎の内容を取込んだ、「**機械工学で学ぶ中級日本語**」、「**建設工学で学ぶ中級日本語**」、「**これから工学を学ぶ留学生のためのほんご練習帳**」の出版 (専門教員と日本語教員との協働の成果)



はじめての集中講義物語



機械工学で学ぶ中級日本語
(3か国語版)

留学生へのサポート

入学後の生活サポート

入学後は、大学において、留学生の日常生活、大学生活、修学、健康等についてサポートやアドバイスを行うとともに、チューター制度により、渡日前後の3か月間は、身近な日本人学生がチューターとして付き、幅広くサポートを行います。

留学生用の宿舎には、合計で約150名の入居が可能で、経済的負担も軽減され、充実した学生生活を送ることが可能です。アパートに入居する者に対しては、契約にあたり、機関保証制度により、大学が機関として保証をします。

入学後の学習サポート

留学生が日本語・日本文化をスムーズに学べるよう、多様なニーズ、レベルに合わせた日本語授業を多数開講しています。

また、「留学生向けの日本語」を用いた工学教育方法の充実も図っています。平易な日本語 (Plain Japanese) を用いた工学基礎教材の開発や工学用語辞書の出版等により、留学生の専門科目の学習をサポートしています。



日本語の授業の様子

LIFE@NUT

長岡市は、美味しい食べ物と四季折々の美しい自然、世界に通用する文化など、たくさんの魅力が溢れる都市です。そして、なによりそれらを支える温かい人たちの魅力で溢れています。

夏には「長岡まつり大花火大会」が開催され、日本全国から100万人以上が見物客が訪れます。前夜祭の「大民踊流し」には、多くの学生が揃いの浴衣で参加し、市民との交流を深めています。また、冬には一面の雪景色が楽しめます。

長岡技大は、長岡市街を見渡す丘陵に位置し、落ち着いた雰囲気のカンパスには、日本全国から学生・教員たちが集結しています。



編集・発行

長岡技術科学大学 グローバル教育センター

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1 TEL:0258-47-9013, 9238, 9917 FAX:0258-47-9283

ホームページ <https://www.nagaokaut.ac.jp/>

2026.7



2026-2027

長岡技術科学大学の 国際展開

Vitality

Originality

Services

Toward the World

- ・高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会を全ての人に提供する
- ・世界各国の高等教育制度において、能力を育成する
- ・持続可能性を推進する

United Nations
Academic Impact

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

長岡技術科学大学は国連アカデミック・インパクトのメンバーであり、SDG9ハブ大学に任命されています。

<https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/sdgs/index.html>

国立大学法人
長岡技術科学大学
Nagaoka University of Technology

長岡技術科学大学が目指す国際交流

長岡技術科学大学は、創立以来約50年の間にきわめて**特異な国際交流を展開**し、グローバル社会に対応した教育・研究システムの礎を築き上げてきました。また、技大の特徴である全国の高専と連携し、一体となることで、世界に類をみない大規模な国際性豊かな高等教育研究組織体を形成することが可能な環境にあります。

今後も、これらのリソースを最大限に活用し、日本の技術力・ものづくり文化を世界に広め、異文化・自国文化を理解したグローバルに活躍できる工学系人材を社会に送り出し、世界に貢献することで、激動するグローバル時代においても「**確固たる存在感のある長岡技術科学大学**」を目指します。

01

広がる国際ネットワーク 国際交流の実績

ここが特色！

- 留学生比率(約12.5%)は**国立大学トップクラス**です。
- ベトナム、マレーシア、タイ、メキシコ、モンゴルなどの急速に発展しつつある国々から多くの留学生を受け入れています。
- 長岡技大の活動範囲は、**世界人口の約90%の国・地域をカバー**しています。

発展目覚ましい東アジア・東南アジア諸国、中南米諸国などを中心として、各国の大学・研究機関等と国際学術交流協定を締結するとともに、多くの外国人留学生・研究者を受け入れており、全世界に広がるグローバルな技術者育成教育・研究ネットワークを構築しています。また、高専等との連携により、海外の大学・研究機関等から最先端研究情報等を収集、分析する体制の構築を目指しています。

●学術交流協定 32の国・地域 116機関

(海外の大学・研究機関、部局間協定も含む)

●外国人留学生 23の国・地域 284人(学生総数の約12.5%)

●海外現地事務所

ベトナム：ハノイ、ホーチミン

メキシコ：モンテレイ

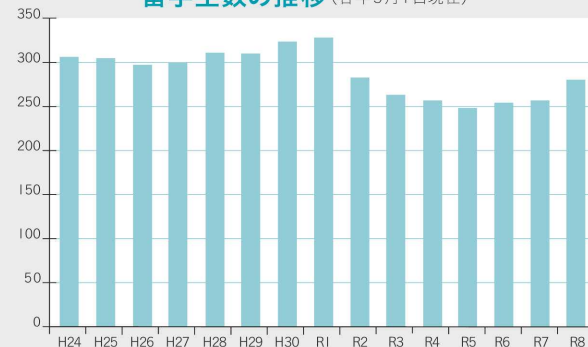
インド：チェンナイ

モンゴル：ウランバートル

ウズベキスタン：タシケント



留学生数の推移 (各年5月1日現在)



大学の世界展開力強化事業

国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州等の大学との国際教育連携の取り組みを支援することを目的として、文部科学省が実施している事業です。

マルチディメンジョン・キャンパスでのデュアルインターンシップを活用した国際協働学習プログラム(令和4年度～令和8年度)

本事業では、連携大学である英国のヨーク大学及びインドのインド工科大学マドラス校と、対面型、リモート型、バーチャル型の交流を効果的に組み合わせたマルチディメンジョン・キャンパス(XC)を構築し、本学と連携大学の学生がいつでもどこからでも交流しながら学習できる環境を実現します。



グローバル産学官融合キャンパス

国際連携教育及び国際産学官連携を核としたネットワークで、次世代の戦略的地域と強固に結びつき、共同教育・共同研究開発を行います。本学が平成26年に採択された文部科学省の「スーパースーパーグローバル大学創成支援」事業において本ネットワークを構築し、『次世代の戦略的地域との強固なネットワークを持ち、世界を牽引する実践的グローバル技術者教育を先導し続ける大学』を目指し活動を行ってきました。令和5年度をもって当該事業の補助金期間は終了しましたが、10年間の活動で構築した基盤をもとに、本ネットワークにおける取り組みを継続・発展させ、事業の自走化を進めていきます。



02

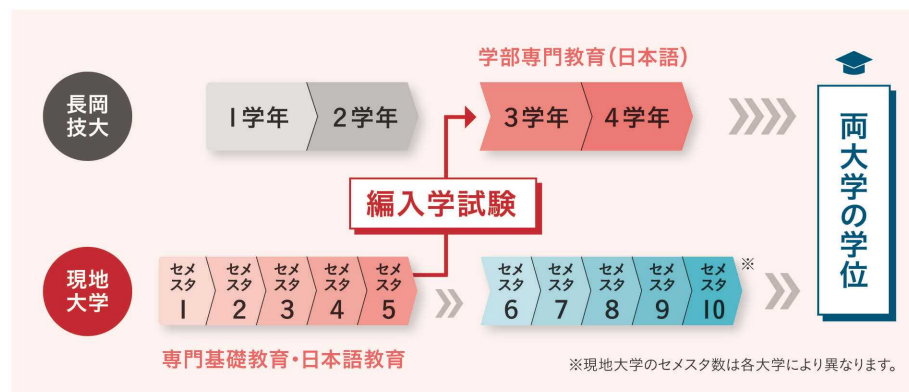
世界とつながる教育プログラム 国際連携教育プログラムの構築

ここが特色！

- 国立大学初のツインング・プログラムを創始し、強力に推進しています。
- 工学教育のユニバーサルデザイン化では多くの成果を出しています。
- パートナー大学の発展に寄与し、**ゆるぎない「絆」**を構築しています。
- 一平易な日本語(PJ: Plain Japanese)による工学教育の実践 など

国立大学法人化以前より海外の大学との協働教育プログラムを開発し、国立大学として初めてツインング・プログラムを導入するなど、国際連携教育プログラムの開発・運用においてパイオニアです。ツインング・プログラムでは、日本語で専門技術が分かる数多くの学生を社会に輩出し、卒業生の多くが国内企業や現地企業の指導的技術者として活躍するなど、大きな成果をあげています。

ツインング・プログラム(学部)基本スキーム

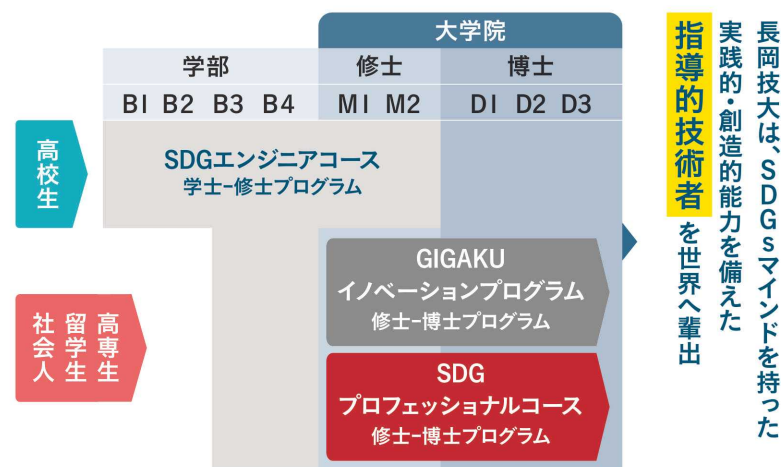


ツインング・プログラム(Twinning Program)では、学部の前半(通常2.5年)は現地の大学にて日本語教育及び専門基礎教育、後半2年は日本において専門教育を実施し、プログラムを修了すると両大学の学位が取得できます。

SDGプロフェッショナルコース(修士課程・博士後期課程)

本学は、持続可能な開発目標(SDGs)の視点を取り入れた教育プログラムを確立するため、本学の実践的な技術者教育プログラム(技学教育)に、世界が直面する共通課題であるSDGsを取り入れた「技学SDGインスティテュート」を構築、UNESCO Chairプログラムとして申請し、2018年5月に認定されました。本コースは、その一要素である留学生向けの大学院プログラムとして、高度な専門性と多様な視野を有する実践的技術者・研究者及び高度な工学教育の担い手を育成することを目的としており、文部科学省の国費外国人留学生の優先配置を行う特別枠に採択されています。

技学SDGインスティテュートのプログラム全体図



国際連携教育プログラム

- ツインング・プログラム(学部生対象)
ベトナムTP
(ハノイ工科大学、ホーチミン市工科大学)
メキシコTP(モンテレイ大学、ヌエボレオン大学)
中国TP(鄭州大学)
マレーシアTP
(マレーシア日本高等教育プログラム(UniKLJUP))
モンゴルTP(モンゴル科学技術大学)
- ダブルディグリー・プログラム
グアナファト大学(メキシコ/修士課程、博士後期課程)
チュロンコン大学(タイ/修士課程)
ハノイ工科大学(ベトナム/修士課程)
- 博士論文共同指導制度
インド工科大学マドラス校(インド)

ツインング・プログラム 夏期集中プログラム

メキシコ、ベトナム、中国、モンゴルとのツインング・プログラムについては、学部の前半教育段階において、本学に出願、入学するにあたり、十分なオリエンテーションを行うべく、約2週間の夏期集中プログラムを実施しています。

内容は、日本語授業、日本語による専門科目の授業や研究室体験等を中心とし、本学の学修環境、生活環境等を経験することを目的としており、参加者はこの夏期集中プログラムを経験することで、本学留学へのモチベーションを高めています。



飛躍するグローバル人材 グローバルに活躍できる工学系人材の育成

グローバル社会が到来し、工業技術、生産・価格、人材の世界レベルの競争が始まっています。今後、「技術立国」日本を支える人材は臆することなく世界に飛び込む実践的・創造的技術者です。

開学以来独自の長期インターンシップ科目「実務訓練」を行っており、日本人学生の「内向き」が指摘されているなか、グローバル社会に対応するべく海外への派遣を積極的に進めていくとともに新たな海外実務訓練先の開拓も行っています。

今後も、海外機関との交流等を通し、日本人学生の海外活動の機会をさらに増やし、国際感覚豊かな学生を育成する「双方向の交流」を目指します。

ここが特色！

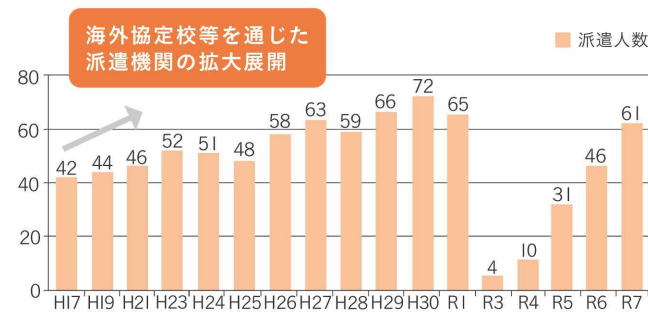
- 約5か月にわたる長期海外インターンシップ(実務訓練)の機会を提供しています。
- 実務訓練生の約10%が海外でのインターンシップを選んでいます。

実務訓練概要



H15年度 特色GPに採択(文部科学省)
H15年度 工学教育賞・文部科学大臣賞受賞(日本工学教育協会)
H30年度 大学等におけるインターンシップ表彰「優秀賞」(文部科学省)

実務訓練の実績



実務訓練制度の概要

社会との密接な接触を通じて、将来、指導的技術者として活躍する際に、必要となる人間性の陶冶と、実践的技術感覚を体得させることを目的として、学部第4学年後半に約5か月間、企業、官公庁等において実務訓練(インターンシップ)を昭和54年より実施しており、平成2年からは海外へも派遣先を広げました。

海外実務訓練 (平成2年から実施)

令和7年度実績

派遣学生: 61人 派遣国: 13カ国 40機関

これまでの実績(令和7年度まで)

*派遣学生(累計) 1,132人

*派遣国・派遣地域

イギリス、インド、インドネシア、オーストラリア、スペイン、タイ、ドイツ、ノルウェー、フランス、ベトナム、マレーシア、メキシコ、ロシア、フィリピン、ルーマニアなど

*海外派遣企業・研究所

アイエムリンクベトナム(ベトナム)、アグハルカル研究所(インド)、Azbil Production(Thailand) Co., Ltd.(タイ)、ADVANTEST(M) Sdn.Bhd.(マレーシア)、NECベトナム(ベトナム)、Evozon(ルーマニア)、オーストラリア原子力科学技術機構(オーストラリア)、KOBOSIA(ベトナム)、Silo Software Consulting SRL(ルーマニア)、ニデックプレジション精密(タイランド)株式会社(タイ)、bGlobal Corporation(ベトナム)、Bucharest Robots(ルーマニア)、PT.Yokogawa Indonesia(インドネシア)、YKKベトナム(ベトナム)



海外実務訓練以外の主な海外留学

海外実務訓練以外にも、これまでの学術交流実績等に基づいた様々な日本人学生の海外留学プログラムを用意しています。

主なものは以下のとおりです。

海外英語研修プログラム

■対象/学部2年生・3年生 行先/オーストラリア

内容 技術者として必要とされる英語力及び海外留学体験を学部前半から得るための約5週間の英語研修です。

メキシコ・モンテレイ大学中期派遣プログラム(英語・スペイン語語学研修)

■対象/学部2年生・3年生 行先/メキシコ

内容 約1か月間、現地での語学研修(英語、スペイン語)、企業見学、文化体験及び同年代のメキシコ学生との交流を通して、海外で海外と仕事をするを見据え、実践的なグローバル視点を養い、異文化理解を深めることを目標としています。

修士海外研究開発実践(リサーチ・インターンシップ)

■対象/修士課程学生 行先/国・地域限定なし

内容 将来グローバルに活躍できるイノベティブな人材の育成を目指すために修士課程において、3か月以上の期間、海外の大学・研究機関・企業等で修士研究テーマに関連したリサーチ・インターンシップを行います。

社会と連携する大学 地域社会との協働

本学が提案した「ものづくりと地域社会に変容をもたらすグローバル技学共修教育モデル構築とR&D人材育成」が、令和6年度「ソーシャルインパクト創出のための多文化共修キャンパス形成支援事業」に採択されました。採択大学は多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動が、国内外の課題解決策の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出に繋がるのが期待されています。

本学の特色であり、かつ強みでもある技学教育を発展させ、地域課題の解決を達成し得る人材を、地域社会とともに育成する教育モデルの構築を目指します。

～ものづくりと地域社会に変容をもたらす グローバル技学共修教育モデル構築とR&D人材育成～

育成する人材像

地域社会との協働を通じて、日本人学生と外国人学生がお互いの文化的多様性を活かし共に学修する「多文化共修」を技学教育に取り入れ、「技学共修教育」を発展させることで、地域課題の理解と解決を目指すグローバルなR&D人材を育成します。

グローバル技学共修教育

「産学連携による実践的なエンジニアの育成」、「学部・修士一貫教育によるR&D人材の育成」、「高専一技科大が連携した教育」という技学教育の3つの柱に「多文化共修」を効果的に組み合わせ、グローバル技学共修教育へ発展させます。

多文化共修科目

- 地域課題を題材とした多文化共修科目の導入により、真のグローバルキャンパスの実現と外国人R&D人材の日本定着及び日本人との多文化共生の促進を目指します。
- 日本人学生と留学生が地域課題に関する協働学習を行うことにより、日本のみならず海外の地域課題への理解を深めるとともに、互いの文化や考え方の違いを認識する機会を持つことが可能となります。
- 日本人学生、留学生が互いに刺激しあうことで、日本人学生は社会や国に対する意識を高めるとともに、他国を理解し多様性を受容する態度を養います。留学生は日本社会の理解をより深めつつ、自国の課題を再認識することを目指します。

地域社会との連携

この多文化共修に自治体、地域企業、高専が加わることで、リアルな地域課題の解決に取り組むことが可能となり、課題解決に多角的な視点を取り入れることが期待されます。また、留学生や幅広い年代の参画を通じて、地域や企業における外国人材の受入れに対する意識の変化が促されることが期待されます。



国際交流基礎データ

留学生数（令和8年5月1日現在）

区分等 国・地域		学部正規生	大学院正規生			研究生等	合 計
			修士課程	博 士 後期課程	5年一貫制 博士課程		
ア ジ ア	インド		2			1	3
	インドネシア		3	2	1		6
	韓国		1				1
	カンボジア	1					1
	スリランカ		5	4	17		26
	タイ	5	3	2	3	2	15
	中国	5	28	21	1		55
	パキスタン		6				6
	バングラデシュ		5	4			9
	ベトナム	36	28	6	6		76
	マレーシア	10	6	1	2	1	20
	ミャンマー		3	1			4
	モンゴル	8	2	1	1		12
	ラオス	6	1				7
中 南 米	ブラジル	1					1
	ベネズエラ		2				2
	メキシコ	21	8		4		33
	チリ				1	1	2
欧 州	スペイン					1	1
中 東	カタール			1			1
ア フ リ カ	ガーナ				1		1
	カメルーン		1				1
	セネガル			1			1
合 計		93	104	44	37	6	284

国際学術交流協定（令和8年5月1日現在）

国・地域		協 定 締 結 機 関
ア ジ ア	中国	大連理工大学、河海大学、鄭州大学、重慶交通大学、河南理工大学、※南華大学核科学技術学院
	ベトナム	ハノイ工科大学、ダナン大学、ホーチミン市工科大学、ホーチミン市技術教育大学、ベトナム海事大学、ベトナム原子力研究所、ホーチミン市科学大学、電力大学、※ベトナム国家農業大学バイオテクノロジー学部、※ホーチミン市工業大学電気工学部
	タイ	タマサート大学、パトムワン工科大学、コンケーン大学、ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校、国立科学技術開発機構、泰日工業大学、チュラロンコン大学、アジア工科大学、スラナリ工科大学、メーファールアン大学、カセサート大学、キングモンクット工科大学トンブリー校、パンヤピワット経営大学、※シンクロトロン放射光研究所、※ブラパー大学、※キングモンクット工科大学ラートクラバン校工学部
	マレーシア	マラヤ大学、マレーシア工科大学、マレーシア科学大学、マラ工科大学、マレーシア国民大学、マラッカ工業大学、※国際イスラム大学マレーシア 生産・材料工学科、※モナシュ大学マレーシア校工学部
	台湾	国立台北科技大学
	韓国	釜山国立大学、※ゲント大学グローバルキャンパス グリーンケミストリー・環境バイオテクノロジーセンター、※忠南大学物理学科、※ソガン大学李研究室
	インド	インド工科大学マドラス校、※インド工科大学インドール校金属材料工学科、※インド工科大学バラカッド校機械工学科、※インド水文学研究所、※アグハルカル研究所心血管生物研究室
	モンゴル	モンゴル科学技術大学
	インドネシア	バンドン工科大学、インドネシア大学、プラディータ大学、※ジャカルタ州立工科大学電気工学科
	ミャンマー	ミャンマー情報技術大学
	スリランカ	モラツワ大学、サバラガムワ大学、※スリジャヤワルダナプラ大学工学部、※NSBMグリーン大学
	キルギス	アラバエフ・キルギス国立大学、アラトー国際大学
	ウズベキスタン	タシケント工科大学
	北 米	アメリカ ※コー大学物理学科 カナダ マニトバ大学
欧 州	中 南 米	メキシコ グアナファト大学、ミチョアカナ大学、モンテレイ工科大学、ヌエボレオン大学、モンテレイ大学、レジオモンタナ大学、シウダーフアレス大学 チリ チリ大学、フェデリコサンタマリア工科大学、アントファガスタ大学、コンセプシオン大学、※マウレ・カトリック大学バイオプロセス工学研究室
		ドイツ ダルムシュタット工科大学、ヴュルツブルクシュヴァインフルト応用科学大学、※ドイツゴム研究所 ハンガリー ミシュコルツ大学 スペイン カタルニア工科大学、デウスト大学、生体材料共同研究センター、モンドラゴン大学、※バスク州立ナノテクノロジー研究所、※バスク気候変動センター
		フランス パリ大学クレティユヴァルドマルヌ校、※ユニラサル工科大学アミアン校、※リモージュ大学セラミックス研究所、※リモージュ大学工科大学校、※エコールソントラル・ド・リヨン、※南ブルターニュ大学、※情報先端技術学校、※フランス国立科学研究センター燃焼・熱・反応・環境研究所
		スイス チューリッヒ応用科学大学工学部、※スイス連邦工科大学ローザンヌ校パワーエレクトロニクス研究室、※ジュネーブ大学植物科学科Luis Lopez Molina研究室、※スイス連邦工科大学チューリッヒ校ハイパワーエレクトロニクスシステム研究室
		ノルウェー ノルウェー科学技術大学情報・電気工学部 チェコ ※カレル大学数学・物理学部、※プラズマ科学研究所、※チェコ科学アカデミー原子核物理学研究所 イギリス ヨーク大学物理工学科、※ノッティンガム大学パワーエレクトロニクス・機械制御グループ ポーランド ※AGH科学技術大学 ルーマニア ルーマニア・アメリカン大学、ブカレスト経済大学、バベシュ・ボヤイ大学、※オラデア大学 ベルギー ※アントワープ大学工学部 スウェーデン ※ウェスト大学工学部
		大洋州 オーストラリア オーストラリア原子力科学技術機構、※カーティン大学理工学部
	アフリカ	ケニア ※ジョモ・ケニヤッタ農工大学 ガーナ ※クマシ工科大学農学自然資源学部

※部局間又は研究室間協定